

二〇〇八年度 日本語・日本文学科 卒業研究(論文) 題目

- 非合理的なものについて
庭園と和歌
女性論―『女性の品格』をめぐって
ひきこもり論
鬼と化す女―「橋姫」説話をめぐって―
北海道出身者の標準語に対する評価
紀貫之の歌ことば・歌枕
芸能譚として語られる鬼―楼上で奏でる音楽―
新世紀エヴァンゲリオン論
『うつほ物語』の恋
安倍晴明とその伝説
『菅家文章』における白楽天の影響について
谷崎潤一郎論
西行の桜の歌について
山東京伝の読本における蝦蟇
伊坂幸太郎論
恋歌と袖の呪力
和歌文学における「恨恋」について
- 井上 真夢
梅基真衣子
安達 朋子
阿部真理絵
板山由佳里
今泉 奈々
大内早智子
奥泉 花菜
落井麻衣子
小山美和子
梶 睦
梶川真由子
柏木 友香
加藤 綾花
鎌田 明華
川向 美里
北川由紀子
北原 遥香
- 接客場面におけるイントネーションについて
―コンビニの接客を中心に―
『天草版伊曾保物語』における人称代名詞の研究
『20世紀少年』論
源氏物語における女性の出家について
～女性の〃戦い〃という観点から～
山岸涼子論
金城一紀論～在日小説をめぐって～
京極夏彦論
人形愛
短詩型文学と広告
松浦理英子論
小式部内侍哀傷歌と和泉式部
『うつほ物語』における源氏と藤原氏
アイヌユカラを読む
宮部みゆき論
『北の国から』論
ステイーヴン・キング論
- 蔵本 夏実
栗尾 美穂
児玉麻衣子
小林 倫子
小林 陽可
小平 沙希
権東久美子
近藤さゆり
佐々木陽美
佐々木絵里佳
佐々木裕美
佐々木理恵
佐藤 暁子
佐藤 美紀
沢田 由佳
澤谷麻梨子

『源氏物語』における

「あを」と「みどり」についての考察

七田 みほ

『うつは物語』における琴の一族

篠田美由記

伊勢の和歌について

下田麻起子

少年漫画における少年のことは

新保 学恵

あだち充論

杉谷理佐子

問い掛け表現「そうですか」における

高岡 未希

イントネーションのバリエーション

高岡 未希

『黄表紙』における助動詞の研究

高木 和美

く口語性と文語性について

高木 和美

『源氏物語』における美的表現について

高田 絵里

『古事記』沙本毘売物語論

高田 佳奈

少女漫画が現代女性作家に与えた影響について

高野 香

近代日本語におけるとりたて詞の変遷

高橋 直子

和泉式部日記における忍ぶ恋と和歌を中心にく

滝井 恵未

多和田葉子作品論

武内結衣子

『枕草子』における

田淵美菜子

笑いの表現としての「をかし」について

丹治 明里

浦島の文学史

丹治 明里

夢野久作論

百海沙耶佳

『千と千尋の神隠し』論

遠山 絢子

『原爆』と『記憶』

中島 靖子

王昭君について—文学作品を中心に—
漫画にみるブラックユーモア

中島 和希
中田 友子

『浮世床』の会話表現について

中野 鈴美

フェミニズム論

中村 貴子

『天草版伊曾保物語』における分ち書きについて

成川 千絵

納西文字の研究—漢字との比較を中心に—

新納奈緒子

宮沢賢治作品におけるオノマトペについて

野呂奈津子

稚児と恋歌について

濱谷 唯

明治20〜30年代の小説における女学生言葉の性格

日當 裕子

小川洋子論

平野このみ

ミステリー論

藤原さとか

映像文化論

古川 真由

恋歌における身体表現について

本庄 千恵

『国造り』から『国譲り』まで

前川 未帆

—天孫降臨の正当性を探る—

松浦 沙智

松尾スズキ論

松川 美郷

都賀庭鐘論

松島 愛

『正忍記』における中国思想の影響について

松田 彩加

『落窪物語』論

松田 彩加

村上春樹論

松山 美加

十返舎一九の化物系草双紙について

松山 美加

『世界の終りと』

ハードボイルド・ワンダーランド」論

三河 仁美

『伊勢物語』における歌の表現について

三島 朱理

鯨の文化史

三津橋のり子

東京語における当為表現について

— 国定読本を中心に —

峰岸 珠希

『天竺版平家物語』における聞き手を指す表現

向江 麻美

山岸涼子『妖精王』を読む

村雲 彩音

尾崎翠論

山崎 彰子

『屍鬼』論

山田 茉莉

『なぞだて』における解の導かれ方についての研究

↳ 採用・付加表現を中心に

湯川 祐子

ミステリー論

吉田 里美

乙一論

脇田 唯

少年ジャンプ論

渡邊 佳菜

日本の笑い

渡邊 菜央

中国社会における集団形成

渡邊 美里

『藤女子大学国文学雑誌』投稿規程

- 1 「藤女子大学国文学雑誌」は藤女子大学日本語・日本文学会（日本語・日本文学科）の機関誌であり、会員からの日本文学・日本語学・漢文学・国語教育関係についての論考を募集します。
- 2 投稿論文の枚数は、四〇〇字詰原稿用紙三〇枚から四〇枚を基準とします。
- 3 投稿論文は完全原稿とし、注の形式は既刊のものに準じてください。
- 4 投稿論文には連絡先を明記のうえ、本会事務局にお送りください。原稿は可能なかぎり電子ファイルとし、打ち出した原稿一部を添えて投稿してください。また、その際、四〇〇字に換算した枚数も書き添えてください。
- 5 投稿の採否は、編集委員会に一任ください。なお、原稿はお返ししません。
- 6 投稿は随時受け付けます。但し、雑誌発行は年二回の予定です。
- 7 論文掲載の場合は、本誌五部と抜き刷り三〇部をお渡しします。
- 8 「藤女子大学国文学雑誌」に掲載された論文などの著作権は著者に帰属するものとします。